

神々の源流

平成12年春季特別展

出雲・石見・隠岐の弥生文化

平成12年4月22日〔土〕～6月25日〔日〕

主催：大阪府立弥生文化博物館
島根県教育委員会／日本経済新聞社／テレビ大阪
後援：島根県立八雲立つ風土記の丘／泉大津市教育委員会
和泉市教育委員会／財団法人大阪21世紀協会／山陽中央新聞社
協賛：摂女子短期大学／大阪明浄大学／短期大学

●開館時間／午前10時～午後5時（入館は4時30分まで） ●休館日／毎週月曜日 ●入館料／個人：一般600円・高大生400円
小中学生・65歳以上・障害者手帳を持つ方は無料 団体：一般480円・高大生320円（団体は20名以上） ●所在地／〒594-0083 和泉市池上町4-4-3
電話：0725-46-2162 ●交通／JR阪和線「橋太山」駅下車徒歩7分／南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分 ●駐車場／普通車80台 大型バス7台無料

考古学セミナー

●第1回／4月23日〔日〕

●第2回／5月14日〔日〕

●第3回／6月4日〔日〕

●第4回／6月18日〔日〕

「弥生時代の山陰とその歴史と特色」
講師：田中義昭

「しまねの青銅器の世界」
講師：足立克己

「古代出雲の神話伝承と考古学」
講師：鐘田剛志

本館学芸員による展示解説 ● 毎週日曜日と祝休日（午前1時）特別展示室



大阪府立弥生文化博物館



神々の住まうつ、出雲はその言い伝えの源流は遠く弥生にさかのぼります。加茂岩倉や神庭荒神谷に埋められた夥しい青銅器。そこに弥生人の想いの深さが伝わってきます。石見の山河に、隠岐の島々に生きた弥生人のエネルギーも出雲に結集したのです。いまも島根県内では新しい発見があいついでいます。このような成果を一堂に集め、海の道、山の道によって結ばれた周辺地域の様子を織り交ぜながら、島根県の弥生文化を考えてみます。ここらよい春のひととき、出雲・石見・隠岐の古代を旅してみませんか。

日本海を通じて運ばれた貝のアクセサリー
〔隠岐町 古浦砂丘遺跡〕



I 海、山を越えた文化

西川津遺跡などに代表される日本海を介して伝わった弥生文化と豊かな縄紋社会の交流の道筋で伝わった山間の弥生文化。島根の弥生時代はこの2つの道筋から始まったのです。



石見の山間部に栄えた縄紋文化の遺産
〔出雲町 ヨレ遺跡・水田ノ上遺跡〕

II 極まった祀りのかたち

加茂岩倉遺跡と神庭荒神谷遺跡での青銅器の発見は、日本全国に大きな衝撃を与えました。北部九州と近畿の文化の接点におけるこの発見は、日本の弥生社会の謎を解く鍵をにぎっているのです。



出雲製の可能性のある銅鐸
〔重要文化財〕
〔加茂町 加茂岩倉遺跡〕
銅鐸と銅矛のはじめての出会いへ(国宝)
〔斐川町 神庭荒神谷遺跡〕



独自性を主張した墓、四隅突出型墳丘墓
〔安来市 安養寺3号墓〕

III 特異な墓の祀り

近畿系の銅鐸祭祀や北部九州系の銅矛祭祀は、紀元一世紀ごろに終焉を迎えました。かわって、独特のかたちをした墓(四隅突出型墳丘墓)の祀りが出雲を中心として山陰地方に広く採用されるようになります。



出雲平野の首長を飾った装身具
〔出雲市 西谷3号墓〕



墓上におかれた土器のセット
〔石見町 中山百石墓〕